

平成22年6月議会一般質問

1、斑鳩町の今後の財政について

- ① 税収が団塊の世代の退職や景気の後退を受けて、住民サービスが今後、低下するのではないかと懸念する声をよく聞くが、ここ数年の住民税の推移を伺う。
- ② これから急速な高齢者社会が進んでいく中で、住民税について町としてどのように捉えているのか伺う。

2、児童生徒の体力向上の取り組みについて

- ① 斑鳩町の小学校・中学校における体力テストの結果はどうであったか。
- ② これから体力向上に対して、どのような計画整備を考えているのか。

最近、住民の方々からよく耳にするのは、町の財政の中でも、税収のことで、とりわけ「住民税がえらい減ってんのとちゃうやろか？住民サービスが後退せいへんやろか？」と町の将来を心配されている住民の声です。

そこで、個人住民税が団塊の世代の退職や景気の後退を受けて、どのように推移しているのか、平成19年から21年までの状況を伺う。

(総務部長) 個人住民税は平成19年度には15億6,115万2千円でありましたが、平成20年度には対前年比1.5%減の15億3,841万7千円、平成21年度にはさらに2.4%減の15億103万7千円となっております。厳しい経済情勢を反映し、減少傾向にあります。

その内容を分析いたしますと、納税義務者数がほぼ横ばい(H19・12,891人、H20・123,753人、H21・12,789人)で推移しているのに対し、特別徴収の対象となる給与所得者の1人当たりの税額は下落を続けており(H19・15万7千円、H20・15万3千円、H21・14万9千円)、高い所得を得ていた団塊の世代が退職したことや、低賃金の非正規雇用による就労者の増加も影響しているものと考えられます。

やはり、住民の皆さんの想像どおり、団塊の世代の退職や不景気が原因で、年々、個人住民税が減少傾向になっていますが、このままだとますます急速な高齢化社会が進んでいくとされているなかで、斑鳩町は住民税についてどのように考えているのか。

また、今後のまちづくりを考えているのかを伺う。

(総務部長) 個人住民税につきましては、厳しい社会情勢の影響によって減少傾向にありますが、国の税制に関わるものであることから、斑鳩町独自の取り組みだけで増加させて

いくことは、非常に難しいと考えております。

そうした中で、なんとか町の努力でやっている施策を何点か挙げさせていただきます。

まず、子育て支援についてであります。今年度から中学卒業まで拡大しております子ども医療費の助成や幼児2人同乗用自転車購入費の助成、妊婦一般健康診断の助成拡充、助産師による新生児訪問や妊産婦相談、小中学校の30人学級の拡大などを実施し、若い世代の定住に結びつき、町税の増加、町の活性化につながるのではないかと考えております。

次に、都市計画策についてであります。現在整備中のいかるがパークウェイや法隆寺線整備事業により基幹道路が完成しますと、住宅の開発による人口増加が予想されますし、店舗の増加などによる法人町民税の増加、そしてこれによる消費の増加により地方消費税交付金の増加などにつながっていくと考えております。

次に観光施策についてであります。継続的にルートサインの整備を進めるなど、訪れる方々が快適に過ごしていただけるような施策に取り組んでいるところであります。今年3月に開館いたしました文化財活用センターや史跡藤ノ木古墳などの町の観光資源をしっかりと活用し、斑鳩町に誘導することによって町税の増加につなげられるのではないかと考えております。

もちろんこうした歳入増加のための取り組みと合わせまして、当町が行政サービスの低下を招かない安定的な財政を確立するためには、出来る限りの歳出の抑制も必要でありますので、経費削減や事業の重点化を図り、財政構造の改善に引き続き努めてまいり所存であります。

若い方が斑鳩町に住んでよかったと思える子育て支援施策をこれからも継続していくことが、個人住民税の減少をストップさせ、安定した財政運営を可能にし、住民サービスの低下を防ぐことになると私は思います。

また、計画的な町の整備を進めることや斑鳩町の特色を生かした観光施策を推進することを要望いたしまして、次の質問に移ります。

全国の小学校5年生および中学校2年生を対象にした「全国体力テスト」が平成21年度に実施されましたが、我が斑鳩町の小学生及び中学生の結果はどうだったのか。

(教育長) 体力テストの結果ですが、奈良県全体では、全国平均を大きく下回り、特に昨年度の中学2年生男子においては全国ワースト1という結果でありました。

さて、本町の結果であります。小学校5年男子と中学校2年女子は全国平均値を上回っており、小学校5年男子は都道府県別12位の熊本県と同程度、中学校2年女子は滋賀県平均値と同程度です。

また、小学校5年女子は、全国平均値とほぼ同程度であります。中学校2年男子は奈良県平均を上回っているものの、全国平均をわずかに下回りました。

これらの結果を見る限り、総じて斑鳩町の児童生徒の運動能力は、現時点では良い結果を得ているという評価になるのでは、と考えております。

今の回答を聞き、斑鳩町の子ども達の運動能力が全体的には良い結果が出ているということで、安心しました。

だが、全校が参加するようになった「体力テスト」は、まだ1回しか行われておりません。

そして、このテストは小学校および中学校それぞれ1学年しか実施されておられません。

このことから、今後の子どもの体力向上に対する対策を伺う。

(教育長) 今回の体力テストで本町は総合的には良い結果ではありましたが、各種目別に見ますと、全国や県に比べて下回っていた種目もありました。

それぞれの学校では、それらの種目に重点を置いて、体力向上に取り組んでいるところがあります。

例えば、握力が低いことがわかった学校では、登り棒や雲梯ができるとシールを貼れるカードを作り、子どもたちが達成感を感じられるように工夫したり、基礎体力の向上が必要であるとわかった学校では、体育の授業の初めに腹筋、腕立て伏せなどの運動を取り入れたりするなどの取り組みを行っております。

今後も、積極的な体力向上に取り組む所存であります。

子どもの頃の体づくりは人生においても、最も大切なものだと自分を振り返っても感じるものがあります。

自分が子どもの頃は、遊びを通じて自然に体力づくりが行われましたが、遊び場が少なくなってしまった現在、学校における対策がますます重要になってきておりますので、今後も積極的な体力向上に取り組んでいただくよう要望しまして、私の一般質問を終わります。